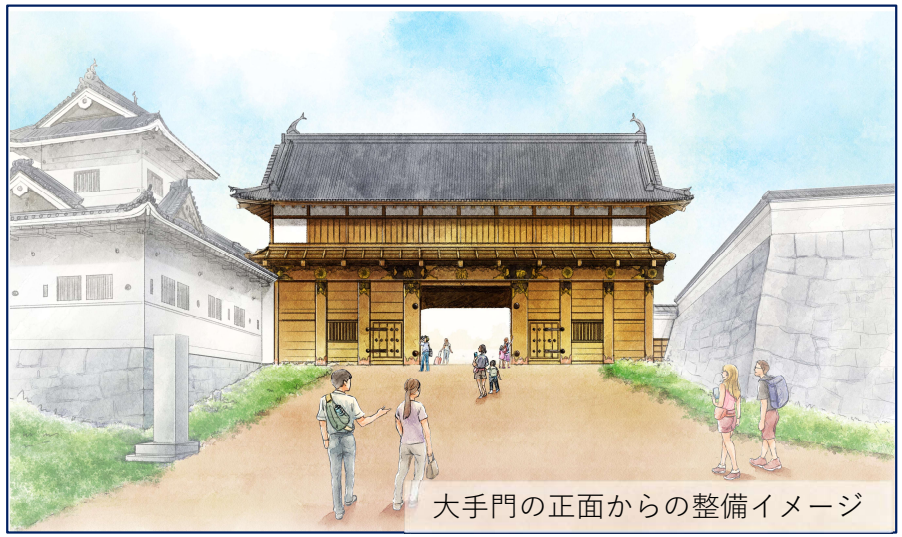
国指定史跡　仙台城跡　大手門の復元

- 仙台藩初代藩主・伊達政宗公が築いた仙台城。大手門はその正門として建造され、長年にわたって市民に親しまれてきました。昭和6年には脇櫓とともに国宝に指定されましたが、昭和20年に仙台空襲で焼失しました。
- 伊達政宗公の没後400年となる令和18年に向けて大手門復元事業が本格始動しました。
- かつての威容を取り戻し、地域の誇りを再生するとともに、歴史・文化教育、観光振興など幅広く活用が期待されます。



大手門の正面からの整備イメージ



仙台城の大手門は、江戸時代を通じて仙台城の正門として機能し、藩主の出入りや特定の儀式の際にのみ開門される、格式ある特別な門でした。高さは約12.5メートルで、現代の建物に換算すると4階建てに相当する堂々たる規模を誇り、仙台城の象徴にふさわしい威容を備えていました。

仙台発祥の地である仙台城跡は、政宗をはじめとする歴代藩主が城下を見渡した場所として、今も杜の都・仙台を見守り続けています。こうした歴史的背景を踏まえた本丸跡からの眺望と、自然環境と調和した城郭らしさを持つ市街地からの景観を“政宗ビュー”と象徴的に表現し、それらを史跡整備により実現することで、仙台城跡がより一層地域の誇りと愛着を育む場になることを目指します。

企業の皆様へのメッセージ

かつて市民から長年にわたり親しまれてきた仙台城大手門。再び市民の誇りとして復元し、仙台城の価値を後世に伝えていくため、ぜひ皆様のご支援をお願いします。

担当：　教育局文化財課　℡022-214-8544